

ハッタジュズイミミズ

ナガミミズ目ジュズイミミズ科

Drawida hattamimizu Hatai

石川県カテゴリー

絶滅危惧 I 類

国カテゴリー

準絶滅危惧

選定理由

石川県と滋賀県でのみ分布が知られている。金沢市八田町が本種の基産地であり、石川県内では現在その町の周辺2kmほどの範囲内にしか分布が知られていない。しかも近年、その生息域の狭小化、生息密度の低下、大型個体の減少が著しくなっている。

形態

体色は青黒色。日本一長いミミズで、生きているときは伸びた体長が60cmほどにもなり、以前は1mほどにもなる個体があったという。固定標本では長さ25cmほど、太さ9mmほどである。体節数は約300。ジュズイミミズ属は各体節に4対8本の剛毛を持ち、背面に背孔がなく、環帯が不鮮明で、雄性孔が10/11体節間溝にある。本種は体内にある砂のう(胃)が12~18体節に6個以上並び、乳状突起が6~9体節と11~13体節の各節に1対あることで、同属の近縁種と区別できる。

国内分布

石川県の河北潟周辺と滋賀県の琵琶湖周辺に分布している。

県内分布

金沢市八田、才田、忠縄、南森本あたりに分布。1930年ごろの分布域は前記各地を中心としてJR北陸線に沿ってJR津幡駅付近から金沢市鳴和付近までに及んでいた。

生態

半水生のミミズで水田の水路わき、あぜのへり付近に特に多くいるが、その水のつかない所に糞塊を排出しているので、これが生息の目印として便利である。生息密度が高い田では稲刈り時期になり、水を落とすと水田中央部にも糞塊ができることがあったらしいが、今はそのような田はほとんど見られない。詳しい生態は分かっていないが、同時期にさまざまな大きさの個体が混じって認められることから寿命は長いのではないかと思われる。

生息地の条件

半湿田的環境が適しているように思われる。

生存の危機

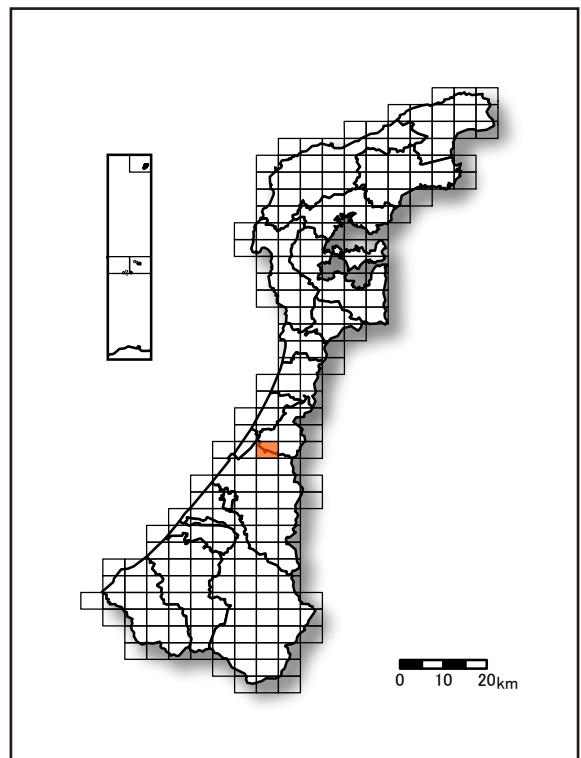
水田への客土、農薬散布、水路・あぜのコンクリート化、農地の宅地・工場用地化などで生息環境は著しく悪化しつつあり、辛うじて生き残っている状態である。(A)

参考文献

Hatai, S. 1930. On *Drawida hattamimizu*, sp. nov. The Sci. Rep. of The Tohoku Imp. Univ. Series (Biology), V(3): 485-508.
市村唐・安田作次郎 1931. 石川県天然記念物調査報告. 第7輯. 102pp. 石川県.
渡辺弘之 2005. 琵琶湖周辺に分布するハッタミミズとその保護について. 関西自然保護機構会誌:27 (2): 3-9.



写真提供者: 高橋奈苗



県内の分布